

## 資格・検定試験の活用にあたってのトラブルとその対応について

大学入試英語成績提供システム（以下、「システム」という。）は、文部科学省、大学入試センター（以下、「センター」という。）、試験実施団体、大学など、様々な主体の関与の下に成り立つものである。

各主体は、その関与の内容に基づき、それぞれ一定の責任を負いつつシステムが運用され、トラブルが発生した際には、これまでの大学入学者選抜における対応と同様に、その発生時期、内容等に応じて個別に対応を判断することとなるが、ここでは、新たなシステムに参加する試験実施団体が関係し、発生しうるトラブル事例とその対応例について整理する。

### 1. 試験実施団体における出題ミス、採点ミス、問題漏洩、試験実施トラブル、成績提供ミス

- 小規模または軽微なミスやトラブルは試験実施団体において速やかに対応するとともに、必要に応じ文部科学省・センターに報告する。
- 広範囲に影響が及ぶ恐れがある場合には、試験実施団体は文部科学省・センターにミスやトラブル等の状況を速やかに報告するとともに、高等学校や大学へ対応方策を周知する。

（周知内容例）

- ・ 出題ミス、問題漏洩のあった設問に関する取扱い
- ・ 採点ミスのあった設問に関する取扱い（採点のやり直し等）
- ・ 試験実施トラブルへの対応（再試験の実施等）
- ・ 成績の再送付（実施団体→センター、センター→大学）
- 文部科学省・センターは、必要に応じ、試験実施団体に対し、期間を定めて業務の改善又は改善案の提出及び改善状況の提出等を求める。
- 文部科学省・大学入試センターでその後の運用状況等を確認する。
- ※ その後の運用が改善されない等、必要な場合はシステムへの参加を取り消す場合もある。

#### 【検討課題】

- ・ 万が一、試験の実施等における重大なトラブルが発生した場合に、再試験の実施は可能か（特に、各試験における年間の最終回で発生した場合）。再試験においては、検定料を再度徴収するのか。可能でな

い場合、受験生保護の観点から、どのような対応が考えられるか。

→試験実施団体より説明

## 2. 試験実施会場不足

- 文部科学省のニーズ調査の結果を参考にしながら、試験実施団体において試験実施計画を策定する。
- 実際の申し込みを受け、希望した受検ができないことのないよう、試験実施団体が受け入れ環境を確保する。

### 【検討課題】

- ① 各試験実施団体の次年度の試験日、試験会場の規模等はいつまでに決定しておく必要があるか。

→多くの高校が翌年度のスケジュールを作成する時期に配慮し、前年の夏頃から遅くとも秋頃までには一定の情報を提供することとできないか。

- ② ニーズ調査の結果を踏まえた試験会場確保のため、試験実施団体と高等学校あるいは教育委員会でどのような調整方法が考えられるか。

→試験実施団体から、公立高校であれば教育委員会へ、私立高校であれば高校へ問い合わせを行うことを基本としてはどうか。一方で、試験実施団体からだけでなく、高校から試験実施団体への問い合わせも必要に応じて行っていく必要があるのではないか。

- ③ 仮に、受検申込後に試験会場の大幅な不足が判明し、かつ試験実施団体において会場の手配が困難である場合にどのような対応を講じるか。

→試験実施団体より説明